

令和6年度
東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会
収集部会

令和7年1月17日(金)
東京都庭園美術館 新館2階会議室

午前9時58分開会

知花文化施設担当課長：皆様お揃いのおようですので、少し早いですが、始めさせていただきます。

本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠にありがとうございます。

ただいまから、令和6年度東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会収集部会を開催いたします。

私、東京都生活文化スポーツ局文化振興部文化施設担当課長の知花と申します。どうぞよろしくお願いたします。議事に入るまで司会を務めさせていただきます。

初めに、東京都生活文化スポーツ局文化施設・連携推進担当部長の富岡より御挨拶を申し上げます。

富岡文化施設・連携推進担当部長：おはようございます。改めまして、東京都生活文化スポーツ局文化施設・連携推進担当部長の富岡でございます。どうぞよろしくお願いたします。

本日は大変お忙しい中、またお寒い中、御出席いただきまして、どうもありがとうございます。

本館は、昨年策定いたしましたグランドデザインがございまして、それに基づきまして、例えば、より回遊性を高められないかなど、より施設の魅力、美術館の魅力を高めようということで具体的な検討を進めている最中でございます。

建物の魅力はもちろんのこと、美術館の魅力を高めるということで、資料の収集・保管、またそれを展示していくという活動がとても大切だと思っております。

その上でも、本日提案させていただきます作品資料につきまして、収蔵にふさわしいかという観点につきまして、皆様に専門的に見ていただきまして、ぜひ忌憚のない御意見を頂戴できればと思っております。

本日はどうぞよろしくお願いたします。

知花文化施設担当課長：ありがとうございます。

本日御出席の委員の皆様を御紹介させていただきます。

私から見まして左側から順に御紹介させていただきます。まず、木田拓也委員でございます。

続きまして、高波真知子委員でございます。

続きまして、富田章委員でございます。

続きまして、村上博哉委員でございます。

なお、土田ルリ子委員につきましては、事前に御欠席の連絡を頂戴しております。

続きまして、事務局職員の紹介でございます。

東京都庭園美術館副館長の牟田でございます。

同じく東京都庭園美術館事業担当係長の吉田でございます。

どうぞよろしくお願いたします。

お手元の資料の確認をさせていただきます。

まず会議次第がございまして、続いて、右上に資料ナンバーを振っておりますけれども、資料

1、東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会（収集部会）委員名簿、続きまして資料2、東京都庭

園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱、続いて資料3、東京都庭園美術館美術資料収集方針、資料4、令和6年度東京都庭園美術館における収蔵品購入に関する方針について、資料5、令和6年度東京都庭園美術館収集候補作品一覧表、資料6、作家・作品説明書、最後に収集部会評価表となっております。

御不足等ございませんでしょうか。ありがとうございます。

本日配付いたしました資料につきましては、委員会終了後に回収させていただきますので、御了承いただければと思います。

本委員会には、収集部会と評価部会がございます。本収集部会におきましては、収集候補作品が東京都庭園美術館の収蔵品としてふさわしいか否かについて意見交換をしていただく部会となります。

それでは、議事に入ります前に、委員長の選任をお願いしたいと思います。当部会の委員長は、資料2、東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱第8の規定によりまして、委員の方々の互選で定めることとなっております。委員長の選任をお願いできればと思いますが、いかがでしょうか。

高波委員：富田委員に委員長をお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

知花文化施設担当課長：ありがとうございます。

そうしましたら、富田委員に委員長をお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

知花文化施設担当課長：ありがとうございます。

それでは、委員長は富田委員をお願いいたします。

富田委員長：では、ただいまの皆様の御推薦により本会の委員長を務めさせていただきます富田でございます。どうぞよろしくお願ひします。円滑な議事進行を行いましてスピーディーに進めてまいりたいと思います。

では早速、議事に入りたいと思います。

まず、部会の公開について事務局より説明をお願いいたします。

知花文化施設担当課長：当部会の公開について説明させていただきます。

当部会は、資料2、東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会設置要綱第10の規定によりまして、原則公開となっております。しかしながら、資料収集決定前の段階で対象資料の詳細を公開することにより、現在の美術資料所有者に不利益を生じさせる恐れがあること、また資料の現物確認につきましては、所有者から説明の参考用に借用していることから、委員会当日の段階では議事内容は非公開とするのが適当と考えます。

なお、当部会の議事録につきましては、同要綱第10第2項の定めに基づきまして、資料収集決定の後、公開を予定しております。公開に当たって、委員の皆様には追って内容の確認をさせていただきます。

また、委員の皆様のお名前と現職名につきましては、東京都のホームページ上に公開させていただきます。

議事内容を非公開とするには、同要綱第 10 第 1 項（2）及び第 2 項（2）の規定によりまして、部会での決定が必要となります。このことについて、事務局といたしましては、委員の皆様にお諮りいただければと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

富田委員長：では、収集部会の公開の是非についてお諮りいたします。

事務局から、本部会については非公開が適当との意見がございましたが、委員の皆様、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（ 異議なし ）

富田委員長：では、特に異議がないようですので、ここから先の本部会の議事内容は非公開とさせていただきます。

では早速、議事に入りたいと思います。

事務局から収集候補作品の説明をお願いいたします。

牟田副館長：それでは、本日御検討いただきます候補作品について御説明させていただきます。

本日お諮りする作品は、お手元の資料 5 にございますとおり、購入案件が 9 件、寄贈案件が 3 件となっております。

詳細につきましては、私及び事業担当係長の吉田、また各担当の学芸員から御説明させていただきます。

まず、美術資料収集方針の御説明から入らせていただきたいと思います。

吉田事業担当係長：それでは、まず初めに、東京都庭園美術館美術資料収集方針について御説明させていただきます。

資料 3 及び資料 4 を御覧ください。

こちらの方針は、首都東京、国際都市東京の美術館にふさわしい美術資料の収集を図るため定めたものになります。

資料 3 につきまして、1、収集の基本的考え方。

館は、歴史的な価値を有する建造物である旧朝香宮邸を保存し、及び公開するとともに、その建物及び庭園を生かして美術作品等を展示することにより、もって都民の教養並びに学術及び文化の発展に寄与するため設置されております。

この設置目的を果たすため必要な美術作品等を収集いたします。

2、収集対象については、以下の 4 点になります。

3、収集分野は、次のアからケに分類いたします。

この中のク、資料についてですが、旧朝香宮邸及び朝香宮家に関する資料は、ここに属します。そのものが家具や服飾・装身具であっても、旧朝香宮邸や朝香宮家にひもづく美術作品等はクの資料に分類することといたします。

4、収集方法ですが、収集は、購入、寄贈及び寄託等によるものとします。収集に当たっては、学識経験者を中心とした「東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会」の意見を聴くものといたします。

また、資料 4 の収蔵品購入に関する方針についてですが、1、「東京都庭園美術館美術資料収

集方針」に則り、東京都庭園美術館における美術資料のコレクションをより充実させる観点で収集を図ること。

2、首都東京の庭園美術館にふさわしいコレクションを形成するため、芸術的、資料的価値が高い作品を対象といたします。

3、国内唯一のアール・デコ様式の専門館として同時代の装飾様式を中心に据え、美術資料の充実をもって都民の知的関心に応えとともに、この分野の調査・研究に資することを目的としております。

続きまして、今年度の候補作品についての御説明に移ります。

資料6を御覧ください。

今年度は、購入が9件、寄贈が3件、計12件が候補作品となります。

まず、購入1件目になります。ルネ・ラリック作の「テーブル・ランプ《ノルマンディー》」です。

19世紀末から20世紀にかけジュエリー・デザイナー、ガラス工芸家として世界で活躍したルネ・ラリックは、朝香宮邸の正面玄関扉に設置されたガラスレリーフをデザインし、大客室と大食堂の照明を提供するなど当館においては重要な作家の一人になっております。

購入候補に挙げたこちらのランプは、1935年に就航したフランスの客船ノルマンディー号のために制作された作品です。

ノルマンディーの内装は、ジャン・デュナンやジャン・デュパらアール・デコ期を代表する作家が名を連ね、壮大で華麗な芸術空間が作り上げられました。ラリックも、1等船客用の装飾や照明などを手がけておまして、本作品は、1等船客のダイニングルームと喫煙室にて使用されたものとされております。

こちらの作品の活用方法については、アール・デコをテーマとする展覧会及びラリックに焦点を当てた展示などが考えられます。また、建物公開展の際には、展示空間に合わせて調度として配置することも可能で、幅広い展示活用を考えております。

続きまして、購入の2件目に移ります。購入2件目の作品もルネ・ラリックによる作品でして、「グラス」2脚です。

本作品は、フランスの海洋会社「Compagnie Générale Transatlantique」、通称フレンチ・ラインのモノグラムが施され、ガラスの底面にラリックの刻印があることから、ノルマンディーもしくはイル・ド・フランスのために制作されたものであると考えられます。

底の部分は厚みを持たせてつくられているのが特徴的で、船の揺れを考慮し、安定感のあるデザインに仕上げられたものと思われます。ラリックがフレンチ・ラインのためにデザインした作品は希少で、価値の高い作品であると言えます。

展示の活用方法といたしましては、ラリックの多岐にわたる活動を紹介する一例として展示することが可能であるほか、建物公開展の際に情景再現にてテーブルセッティングなどでも活用が期待される作品となっております。

続きまして、購入3件目の作品になります。こちらは「ルミネール 照明器具と新しい照明手

法」です。

1925年、フランス・パリにて開催されたアール・デコ博覧会で発表されたシャンデリアやランプ、その周辺の装飾を掲載したプレート48枚の図版集になります。1920年代に席卷した華麗な装飾美術のアール・デコの世界観をうかがい知ることのできる資料です。

アール・デコ期のデザインや装飾をテーマとする展覧会、またはアール・デコ博覧会自体を取り扱う展示の中で活用が見込まれます。

また、朝香宮邸の内装に関わりのあるルネ・ラリックやレイモン・シュブらの作品も掲載されていることから、建物公開展や、今後、当館における研究資料としても活用することを想定している作品です。

続きまして、購入4件目に移ります。購入の4件目は、「指輪」です。

朝香宮允子妃に由来するもので、朝香宮家関係者からの購入案件になります。菊の紋が入ったケースが附属品としてついてございます。ケースの内側の記しから、18世紀末にパリで創始された宝飾メゾン、マレ・フレールの指輪であると推測されています。

マレ・フレールは、その後、バンスランという宝飾メゾンに吸収合併されるため、その商標に見られる場所に店舗があった1901年から、合併する1912年の間にあつらえられた作品だと考えております。

当館には、既にバンスランであつらえられた允子妃所用のブレスレットを収蔵しております。このブレスレットは、同じく当館所蔵の「受領證綴」という朝香宮夫妻滞欧中の領収書をつづった資料から来歴が明らかになっているものです。

今回候補としているこの指輪を手がけたマレ・フレールが、後にバンスランにつながることで、また両メゾンによる允子妃所用の品を所蔵することは、展示や研究対象として今後様々な可能性を秘めていると言えます。

続いて、購入の5件目になります。購入の5は、「朝香宮家アルバム（国内）」です。

朝香宮は写真好きな宮様として知られておりまして、当館でも昨年、夫妻の滞欧中の写真アルバム2点と、パリで撮られたであろう夫妻のポートレートを収蔵いたしました。

今年度の購入5から9までの資料につきましては、昨年収蔵したアルバムとポートレートと同じ所蔵者からの購入案件になります。

購入候補の作品は、昭和初期に写された朝香宮家のプライベートがうかがえる写真を中心に構成されています。旅先での家族の姿や宮家の日常の姿を捉えた写真は貴重で、今後は建物公開展等で朝香宮家の紹介をする場面や研究対象としても活用が見込まれています。

続きまして、購入の6件目になります。こちらは、「北白川宮家関連アルバム」です。

北白川宮成久王は、朝香宮鳩彦王と同年代の皇族で、允子妃と姉妹関係にある房子妃と結婚されたこともあり、親交の深い人物です。このアルバムは、その房子妃付きの御用掛または侍女がまとめたものと考えられております。

1923年パリ滞在中に自動車事故に遭った朝香宮鳩彦王と北白河宮夫妻ですが、房子妃が入院中の姿がこちらのアルバムでうかがえます。また、それを見舞う允子妃の様子も写真に写されて

おります。

事故によって療養を余儀なくされた朝香宮でしたが、急遽駆けつけた允子妃とともに、1925年までパリに滞在することとなりました。アール・デコ博覧会をはじめとした様々な経験をその機会に得ました。こうした点から、朝香宮邸が建つ背景を物語る資料として、展示や研究での活用が今後見込まれる作品になっております。

続きまして、購入の7、8、9については、朝香宮家の関連写真を、撮影の目的や写されている対象物を三つに分類して挙げております。

購入の7につきましては、私的に撮られたであろう皇族等の写真、8枚です。

購入の8につきましては、視察をはじめとした公的な場にて撮影された写真、11点です。

そして、購入の9については、幼年学校時代の朝香宮が被写体となった集合写真をはじめとしたものになっておりまして、こちらは7点です。

それぞれ複数点ありますので、詳細は実見の場にて御説明させていただきますが、いずれも建物公開展や当館の研究資料として活用を考えている資料となっております。

続きまして、寄贈の案件3件に移ります。

今年度の寄贈3件につきましては、全て同じ所蔵者からの案件になります。

まず、1件目です。「ノルマンディー パンフレット」です。

ノルマンディーの乗客に配布されたもので、船内の見取り図や各室の様子が描かれたイラストを掲載しております。アール・デコの円熟期にデザイナーが総力を挙げて美しい内装を施した船内の情景をビジュアルで伝えることのできる資料です。

アール・デコ期のデザインをテーマにした展覧会や、今回の購入候補でもありますテーブル・ランプ《ノルマンディー》と組み合わせての展示も可能となっております、有効な活用が見込まれる資料です。

続きまして、寄贈の2件目です。こちらは、3点の写真です。

写真の向かって左側から1番目になりますが、北白川宮成久王の幼少期の写真、中央が朝香宮鳩彦王の幼少期の写真、そして右側が朝香宮鳩彦王と東久邇宮稔彦王が学習院初等科へ進学した際の写真であると考えております。

朝香宮の幼少期の姿が分かる資料は貴重で、今後、建物公開展等での活用を見込んでいる資料になっております。

最後になりますが、寄贈の3件目になります。寄贈3件目は、「絵葉書」11枚です。

こちらは、朝香宮の直筆の絵葉書を含む11枚になっておりまして、旅先から朝香宮が出した絵葉書でありますとか、北白川宮家または竹田宮家の親族から鳩彦王に宛てた絵葉書も含まれております。

こちらも、今後は研究資料として、また建物公開展等での活用を見込んでいる資料になっております。

庭園美術館からの説明は以上です。

御質問、御意見などはございますでしょうか。

富田委員長：いかがでしょうか。

それでは、今の段階ではないようですので、これから作品の実見をしたいと思います。案内をお願いいたします。

(委員離席)

(作品実見)

(委員着席)

富田委員長：では、実見が終わりましたが、現場でもいろいろ御質問等出ていたようですけれども、何かこの場でほかに御質問ございますでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、意見交換に移ります。

作品の評価方法等について、事務局から説明をお願いします。

知花文化施設担当課長：作品の評価方法について御説明させていただきます。

お手元にごございます評価表を御覧いただければと思います。

作品ごとにA、B、Cの3段階で評価していただきます。Aは「収蔵すべき」、Bは「収蔵してもよい」、Cは「再検討を要する」という評価になります。A、B、Cのいずれかに○をつけていただきます。

委員の皆様の御記入後、事務局で評価表を回収して、確認させていただきます。

評価方法の説明は以上でございます。

なお、確認の結果、C評価がついた作品があった場合は、後ほど評価した委員に理由をお伺いできればと思っております。

富田委員長：評価表について何か御質問ございますでしょうか。

では、よろしければ御記入をお願いいたします。

(委員評価表記入・回収)

富田委員長：C評価は該当なしということでございました。

では、委員の皆様から総評を一言ずついただければと思います。

高波委員からお願いします。

高波委員：大変有益な資料ばかりで、実見で見入ってしまいました。

ラリックのテーブル・ランプ《ノルマンディー》は、イラストとかそういうものには載っていませんが、どのように使われたかはレゾネに載っているということで、大変貴重な資料だと思います。

実見したところ、傷が2か所ありました。自分もあの手の傷に経験がございまして、当てた傷ですともっとばちっと広がるので、当てたりしたものではなくて、温度変化の可能性もあるという意見を修復家の方からうかがったことがあります。1か所だったらたまたまですけれども、2か所ありましたから、温度の低い場所で明かりをつけてしまうと温度変化が激しくダメージを受けてしまう恐れがあるので、展示の際は温度管理をして慎重に活用していただければと思います。

もう一つ、照明の「ルミネール」は大変興味深かったです。庭園美術館の本館の妃殿下の居間と、それから姫宮のお部屋の居間に、フランスの照明工房ジュネ・エ・ミシヨンのデザインの天

井灯があります。宮内省内匠寮の建築資料には図面があるので、そっくりですけれどもそのものではなくて、言わばデザインをコピーして図面に起こして日本でつくっているということがはっきりしていると思います。大変貴重な資料ですので、有効活用していただければと思います。

以上です。

富田委員長：木田委員、お願いします。

木田委員：非常にこの美術館にふさわしい作品がまた今年も加わったのかな、いい収集だなと思いました。

ノルマンディー号のテーブル・ランプもラリック作ということだけではなくて、保存資料なども含めて展示にうまく使えそうなどともいい資料だなと思いました。

照明の資料集（ルミネール）なんかも、当時照明に対する関心がすごく高まっていた時期のかなということも感じられて、当時のデザイン、そういったものに関わっていた人たちの照明器具に対する取組みたいなものがよく感じられていい資料だなと思いました。

あと、指輪に関しても、允子妃様の縁の品ということで、とてもいいものが入ったなと思いました。タイトルはもう少し、縁みたいなのが感じられるような、そういうのが情報として前に出てきてもいいのかなと思いました。

あと写真に関しては、牟田さんから本当に詳しい御説明があったので、これまでの研究の蓄積みたいなのが感じられて、とてもおもしろかったです。どうもありがとうございました。

以上です。

富田委員長：ありがとうございました。

では、村上委員お願いします。

村上委員：それぞれの作品資料について、担当の方から非常に丁寧に説明していただいて、それぞれの候補作品資料の意義や今後の活用方法などについて十分に説明していただいて理解いたしました。

今年、アール・デコ博覧会から100年になると思います。恐らく100年を区切りにいろいろな新しい研究も、展覧会や出版などで今年特に多く発表されるのではないかと思います。そういったところにも学芸員の皆さんは今後注目をされて、新しい研究の成果をぜひ取り入れていただければと思います。

以上です。

富田委員長：ありがとうございました。

私からは、いずれの作品資料も収集にももちろん全然問題ないと思いますし、大変すばらしいものだと思いますので、ぜひ活用をうまくやっていただきたいなと思います。

購入3の作品ですけれども、恐らくルミネールのほうが発音としては近いんじゃないかと思うんです。だから、収蔵作品として登録するときはルミネールとしていただいたほうがいいかなと思います。

あと、資料のノルマンディー号のパンフレットです。大変おもしろくてすばらしいですし、それからカラーでかなり大きさがあるので、展示効果もかなりあると思うんですけれども、一部や

ぶれているところがあって、どうしてもたんで収蔵して、展示するときに広げるので、きちんと補修をしていただいて、いい形で展示できるように御配慮いただければと思います。

それでは、これまでの意見交換を踏まえまして、評価表の内容を変更したいという方はいらっしゃいますか。よろしいでしょうか。

では、これをもちまして収集部会を終了させていただきます。

皆様の御協力のおかげで大変スピーディーに議事が進行いたしました。どうもありがとうございました。

それでは、事務局のほうに進行をお返しいたします。

知花文化施設担当課長：富田委員長、どうもありがとうございました。

冒頭に説明させていただきましたけれども、お配りしております資料につきましては、一式回収させていただきますので、机の上に置いたままにいただければと思います。

これをもちまして、令和6年度東京都庭園美術館美術資料収蔵委員会収集部会を終了させていただきます。

委員の皆様、本日はどうもありがとうございました。

午前 11 時 18 分閉会

以上